

つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書 (令和6年度) 2024年度

活動日時	月	日	曜日	開始	終了	場所	会員参加数
	2	20	木	9:00	12:30	脚折菜園	13
活動名称	小彼岸桜苗移植					報告者：小沼	

<活動目的>

脚折菜園で育成してきた小彼岸桜苗を出荷できるようポリポットに入れる作業と会員が自宅
で1年間育成してきた小彼岸桜苗を脚折菜園に移植する作業を実施した。

<主な活動内容>

- ポリポットに入れる作業 … 3年目苗木20本を出荷できるようにした。
 - ・従来はコモで巻く根巻作業であったが、最近は準備したポリポットに入れ、畑内に埋めなおすこととした。
 - ・具体的作業は、マルチの撤去、支柱への留め紐の撤去、支柱の撤去、苗の掘り起こし、ポット入れ、ポットの埋めなおし、枝の剪定、散水です。
- 苗を撤去した場所に苦土石灰、腐葉土、牛糞、化成肥料を入れ、耕運機で耕した。
- 会員宅で育成した苗合計542本の内、87本を畑に移植できた。残存率は16%となる。
 - ・具体的作業は、マルチを設置し、横3穴、縦3穴ずつに支柱を立て、マルチを外し、会員の持ち寄った苗を支柱に縛り(2点)、埋める。マルチを入れなおし、マルチ周辺を固め、散水し完了 ユスラウメ11本(黄テープ)を別途植樹した。
- 2年目苗木を剪定 … 24本を来年出荷できるようにした。

<課題・評価>

今回の出席者は13名であり、午前中に作業を完了することができた。従来のコモによる根巻作業よりもプラポット使用は効率的であった。

桜苗の嫁入り先が確定しておらず、今後の状況によるが、当面、秋に太田ヶ谷竹林東側の水路沿いに10本程度移植する予定である。ロボティックセンターへの移植作業時期と必要本数が未確定であるが、移植することは確認できている。また、進出企業の外構周りへの移植がどのようになるのか不明であるが、法人会員へのアプローチ素材として期待したい。

会員の育苗した苗の大きさは10cmから1mと大きな差があり、今後育苗方法について全員で検討する必要がある。

<里山参加会員>

(前列) 牛島、橋本、小澤弘、清水。

(後列) 金、石樽、杉山、阿部、柳川、内藤、小嶋、佐野英、(小沼)

<活動写真>



会員が自宅で育苗した苗



3年目苗木の掘り起こし



ポット入れ



苗床整備



苗床への移植



搬出できるポット苗木



2年目の苗床



集合写真